# 愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151　Tel:075-621-3849　Fax:075-621-1579
E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp　http://www.airinkan.net　振替:01020-5-39321
編集発行所:社会福祉法人イエス会 愛隣館研修センター　発行責任者:平田 義

102号


## 「地域」にとけこむ

向島ニュータウンの再生・活性化を目指して、2016年度より「向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会」が京都市と地域住民、京都文教大学、事業者等を中心に開催され、2017年3月に「まちづくりビジョン」が策定されました。その中で、高齢者・障がい者・中国帰国者等も活き活きと暮らせるまちづくりを目指す取組みの一つとして「にじいろプロジェクト」が発足いたしました。今号ではその代表者であられる5街区住民の黒多みなみさんに「まちづくり」への思いを寄稿していただきました。ご一読ください。（平田義）

### 「虹のゆくえ」

黒多みなみ

晴れた気持ちのいい日です。あちこちのベランダに布団が干されていて、それをパンパンたたく音がします。「おはよう」とのFさんとAさんの声で、こちらもあいさつを返します。いっしょに歩いている人が、「いや！連だって歩いたはるわ」との声にじんわり温かいものを感じました。これだけでは、なんのことかわかりませんね。ちょっと説明しましょう。

わたしは目が見えません。そのため物音や声からいろんなことを想像します。春先の晴れた日などには団地のあちこちのベランダに布団が干されていて、あちらの棟の低い階のところから、こちらの棟の高い階のところからポンポン、パンパン音がします。気持ちのいい光を感じながら、そんな音を聞いているだけで、干したての太陽の匂いのする布団に横になったようなほんわかした気分になります。

けれども一人で外出しているときはそうはいきません。自動車の音や、杖の先で感じる道の様子などに気を張っているからです。その時はたまたま慣れた場所をいつも一緒に歩いている人と出ていたので余裕があったのでした。

FさんとAさんとは以前からの知り合いで、二人とも車椅子で生活しておられます。残念なことに目が見えない者は道ですれ違ってもこちらから挨拶することは出来ません。足音などで誰かとすれ違ったなと感じてもそれだけでは誰だかわかりません。FさんとAさんはそんなわたしのことをわかっていて、「Fです」などとと名乗ってくださるので、すっかり声と名前が一致するようになりました。

Fさんは電動で、Aさんは手動の車椅子を使っておられました。連だって歩くときは、電動のFさんが先頭で、Aさんが手動の車椅子でFさんにつかまって歩いておられるのだとわかりました。うららかな春の日とは対照的な雪の大草原を力強く疾走する重連の蒸気機関車を思い出しました。

そんな想像は、車椅子をつかっていないものの勝手な想像だといわれるかもしれません。

視覚障がい者の場合でも、目の見えるものが一人いて、目の見えないものが何人かいると、目の見えるものを機関車に何人も重連で歩くことがあるからです。ある視覚障がい者団体の全国大会で、以前からの知り合いが左右に二人ずつの視覚障がい者を手引きして集会に現れたことがあって、その人物を見直したことがありました。もっともその知人は集会中ずっと机につっぷしたまま寝ていましたが…

まちづくりビジョンの話し合いのなかで、向島ニュータウンの特徴であり、またその良いところは、いろんな人々が暮らしているという多様性だという話をよく聞きました。たしかに自分とは違った人がいると、互いに分かり合うのは邪魔くさくて、手間のかかるものです。けれども、そして、だからこそ他人のことがちょっとでもわかったときの喜びは格別なものです。

「にじいろプロジェクト」という取り組みをはじめました。どんなことをするのか、本当に分かり合えるのか、わたしにもわかりません。とるに足らないような歩みかもしれません。けれども続けることでいささかでも小さな喜びが見つけられるように願っています。

まずは、「向島大学シリーズシネマとトーク」と題して、一人の人の好きな映画を観て、その人の話を伺うという取り組みを始めます。これまで続けられてきた向島大学を引き継ぐもので、コーヒーを片手に気楽に話し合えるものにしたいと思っています。できれば障がい者だけではなく、中国語を母語とする人たち、福島から避難されている人たちの話も聞ければと願っています。

第1回「シネマとトーク」より↓

虹の始まる根元を見つけた者は幸せになるという言い伝えがあります。そこには幸せの国が広がっているともいいます。みんなでそんな虹のゆくえを探しに行きましょう。

# ２・１１　平和について考える日

馬嶋亮太

2月11日は、戦前の「紀元節」を復活させる「建国記念の日」として1967年より国民の休日とされた。戦時中この日までに戦いの結果を出すことを目標にする日として利用されていた。そのために多くの尊い命が犠牲となった。愛隣館ではこの日を「平和について考える日」として毎年平和集会を開いている。今年度ラブ&ピース委員会が決めたテーマは「子どもの貧困」であった。

日本の学校は義務教育で、友達と一緒に給食も食べることができる。しかし子どもたちが帰る家庭環境はそれぞれで、ドアを閉じてしまったあと、家の中のことは家の外には見えづらいだろう。 愛隣館のスタッフ向けに、京都文教大学教員の小林大祐さんをお招きし、向島地域のことをお話しいただいた。

「夏休みになって給食がないので痩せてきている子どもがいる。」2014 年8月、民生委員さんのことばへの気づきから、そんな子どもたちのために京都文教大学の教員と学生、民生委員さんと高齢者ボランティアを中心に一歩を踏み出された「MJキッズキッチン」。全国で行われている「子ども食堂」や「故郷の食文化を伝えるキッズキッチン」とは少し異なっている。

向島ニュータウンでは、共働きやひとり親家庭も多く、子どもたちだけで食事をすることも珍しくない現状があることから、お金だけもらっても自分で料理できるように「生きぬくためのキッズキッチン」という願いをこめて、買い物から調理までを一緒に行うプロセスを大切に継続開催されている。

「平和について考える日」では、「さとにきたらええやん」というドキュメンタリー映画の上映を行った。1977年、大阪市西成区にある通称「釜ヶ崎」の子どもたちに健全で自由な遊び場 を提供したいとの思いから、こどもたちの遊び場(ミニ児童館)「子どもの広場」として活動をスタート。1980年に「こどもの里」開設以降、“さと”と呼ばれるこの場所では 0歳からおおむね20歳までのこどもを、障がいの有無や国籍の区別なく誰でも無料で受け入れている。地域の児童館として学校帰りに遊びに来る子や、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子だけでなく、子どもの親たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、貴重な地域の集い場として在り続けている。「子どもにとっての居場所というのは、自分にとって安心と思える場所、居てもいいと思える場所。力が発揮できる場所、認めてもらえる場所、そしてしんどさを受けとめてもらえる場所、失敗してもやり直しができる場所というのが子どもにとって必要な居場所です。」と、こどもの里館長の荘保共子さんはお話しされている。

子どもたちにとっての生きづらさは地域によって様々である。人と人とが関わりあうコミュニケーションが気薄になり、地域のコミュニティが失われつつあるなか、地域全体で子どもたちを育てていける場所の大切さを知る。閉じられてしまっているドアが開かれて、子どもたちも大人たちも健康でいられるようになるには。かつて愛隣館の土曜学校に集っていた子どもが今はスタッフとして働いていることを考えると、これからの子どもたちともつながっていけるような、地域と共にある愛隣館、そしてもっと地域にひらけた愛隣館をつくっていきたいと思う。

柏木正行さんの
魂に触れる

キリストの家

キリストの家に
キリストに会いにいった
しかし
キリストは見えなかった
ただ
キリストの子供たちが
キリストを拝んでいるだけだった
儀式が始まった
大理石の祭壇に明かりが点り
司祭が
キリストの代わりに
キリストの話をして
キリストの子供たちが
畏まって聴いているのだった
突然横合いから
キリストの女が
厚かましく献金袋を突き出してきた
キリストの家には
もうキリストは居なかった
キリストの子供たちは
キリストを忘れてしまっていた
わたしはキリストに会えないまま
キリストの家から出ていった

# 永弘峰一さんの豊島応援記

社会福祉法人イエス団豊島プロジェクト担当：横山利明

去る2017年1月15日～21日、京都より永弘峰一さんが豊島に応援に来てくれました。

峰一さんは京都市向島在住のアラフォー男性。電車を愛し、日本各地での「ノリ鉄」を趣味にしています。仕事場では、箱折りや下請け業務をこなし、いつも仲間を気遣い、ムードメーカー的存在です。そんな彼が今回豊島に応援に来てくれました。

この時期、豊島の特産みかんは最盛期を迎えています。その『みかん』の応援です。

今回応援していただいた『みかん』は、これまで９０歳になる島の方が一人で管理されてきた農園産まれです。その方が、昨年大きな病気にかかり、いよいよ農園を存続させることが難しくなったのです。当時、多くの島民がその方の体のことと等しく、みかん農園のことも心配されていました。そのみかん農園が、島の方にとって長年親しみ、愛着あるものであることは、島の方々の声を聞いているとよくわかります

このみかん農園を何とか存続させようと、島民の有志が集まり活動が始まりました。そして、収穫の時を迎えることができました。

みかんの収穫って、思っていた以上に大変…。『誰か応援に来てくれないかな～？』と呼びかけると手を挙げてくれたのが、峰一さんでした。

応援と言っても、労働対価をしっかり給料としてお渡ししますので、彼も本気です。１月だというのに、陽ざしがあれば半そでになって収穫作業ができるような場所です。見晴らしもよく、海を行きかう船が見え、鳥の声がＢＧＭ。ここでも彼はみんなのムードメーカーでした。

僕たちがスーパーで見かけるみかんは、甘く、見た目もきれいな宝石のようなみかんです。でも実際の木になるみかんは、そんなものばかりではありません。宝石のようなみかんは一部なのです。この農園でもそうです。出荷されず、待機しているみかんの山ができます。

このみかんをジャムにして販売すること。それも彼の豊島応援の一つです。なんとか有効に活用してほしいとのことで、地域活動の一環で、ジャムの製造販売も行っている『かめだ屋』に全面協力をいただき、売り物にできるジャムを作りました。

収穫したみかんを運ぶ姿↓

島のおばちゃんと一緒にジャムづくりです。これも給料になるということで峰一さんは一生懸命です。峰一さんの働く姿を見る機会が少ない僕は、ひたむきにみかんむきをする姿に感銘を受けました。このジャムは数量限定で、京都で販売され、人気爆発だったとか。

仕事だけではなく、せっかく来てもらったので、豊島の体験も忘れません。前号で紹介したmammaで食事し銭湯へ。畑で麦踏みをしたり、夜釣りに出かけては釣果をあげたり。地域の餅つき大会に参加したり、瞳保育所で子どもたちと交流の機会をもったりと、色々な体験をしてもらいました。同時に豊島に刺激と活気を与えてくれました。

峰一さん、一日だけ休暇があったのですが、稼いだお金を握りしめて、一人香川県高松へ。峰一さんの日記によると、路面電車の『こと電』を一日乗りまわし、うどん屋を４軒ハシゴ。滞在期間中一番盛り上がったみたい…。

豊島には電車はもちろん走っていません。コンビニもありません。そんな場所ですが、色々な仕事や経験できることがあります。峰一さんも豊島に滞在しながら何かしらリフレッシュになったり、貴重な経験ができたのならさいわいです。また豊島応援に来てくれるとうれしいです。峰一さんに限らず関心を抱いてくださった方は是非豊島へお越しください！

一緒に『みかん』しましょう！

## 2017年12月、2018年1-3月行事報告

12/03 **二ノ丸学区避難訓練**
12/09 **デイケア・シサムクリスマス会**
12/23 **『愛隣』クリスマス会**
12/28 **デイサービス忘年会**
01/23 **2.11事前合同学習会**
01/22 **愛隣館医療的ケア学習会（経鼻経管栄養）**
01/29.02/13 **感覚統合学習会**
02/11.15.25 **喀痰吸引等第3号研修（基礎研修）**
02/12 **2.11平和集会　「さとにきたらええねん」**
02/18-21 **アジア国際夏期学校　済州島セミナー**
03/03 **第1回「シネマとトーク」**
03/04 **向島まつり春の子どもまつり**

段ボールハウスづくりなど→

## 3・11メモリアルキャンドルinむかいじま2018

「慰霊と復興・平和への願いを込めて」

「原発事故後の福島を考える。私たちができること」

▼3月7日(水)～11日(日)10:30～16:00
マリアと描く明日の私展、福島を知る資料、原発賠償京都訴訟原告団の記録、
宮城県女川町で暮らす鈴之助君の記録「touchable future」

▼3月9日(金)13:30～15:00
避難所HUG(Hinanzyo Unei Game)。避難所を模擬体験するゲーム。

▼3月10日(土)14:00～16:15　お話会
吉野裕之さん「原発事故後の福島を考える～測定や保養活動を通じて～」
奥森祥陽さん「原発賠償京都訴訟　原告は何を求めているのか」

▼3月10日(土)18:00～19:00　キャンドル点灯　311個の灯篭を、3．11にかたどって点灯
＊場所:マイタウン向島(向島ニュータウンセンター商店会内)

キャンドルは、向島ニュータウンセンター広場(京都銀行向島支店前)にて行われました。

## □■□■□■□■ ご支援ありがとうございました □■□■□■□■

**今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。**
**今後ともよろしくお願い致します。**
**感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。**

### 愛隣館研修センターを支えて下さった方々

**《月定会員》**

荒木啓子,市川潤子,稲木友美,伊吹恒二・寛子,奥間早登子,大谷優子,金山秋義,君村千代子,木村美由紀,木村耕,北園由希子,菊地義則,坂田明子,櫻恵子,仕田中萌子,田中晃・千栄,刀根史恵,中島雅子,中村かおり,中村香代子,中村直子,西村美枝子,林栄子,福田尚子,前川有紀,松浦良枝,松野正信・清美,村川知子,森あかね,森雄子,安野喜仁・優美,山下亜希子,山崎希充子,藪内みのり

**《指定献金（夏期特別、クリスマス、年会費)》**

郵便振替(個人)：秋山幸美,池添素②,梅田健也,梅村貞造,加治木政子②,川西大祐,神谷友之・恭子,川中大輔,上川正,賀川一枝,川田よしみ,岸野修三,喜多明子②,北野井一恵・智恵子②,木村拓貴,小久保正,近藤孝子,上内鏡子,後藤一志②,坂本紘輝・和子②,志賀勉,篠木幸二郎②,清水元介②,四方哲,菅令子②,杉本星子,髙橋秀幸②,竹内富久恵,滝口宣（所沢教会）,辻中徹也・明子,刀根史恵②,冨増献児,銅銀正美,中西仁美②,長尾文雄,中西静子②,中村聡子,中垣陽子,丹羽克吉,野島正光・共子②,冨士定夫,藤田早紀,本田桃子,朴実・清子②,間渕史子・泰司,宮本真希子②,村田稜太②,村岸冨美枝,村瀬義史（関西学院大学）,森田和子②,守本孝造,藪中利光・翔太,山内恵美,山口政紀（ｵﾘｼﾞﾝ電気）

その他寄附金(個人)：岸野修三,小中謙吾・福田竜一・宮坂亜矢子,髙木春美②,寺本喜宥②,中井二美,丹羽健二,服部昭,畠田知佳,橋本求,樋口和哉,平井啓之,溝口修造・智之②,安野喜仁・優美,匿名

郵便振替(団体)：愛之園保育園②,石橋教会,軽井沢追分教会,京都丸太町教会,啓明学院,甲子園二葉幼稚園②,神戸教会,夙川教会,同志社高等学校②,同志社中学校②,新島学園中学校・高等学校,西宮一麦教会,西小倉めぐみ教会,原宿教会,光の子保育園,枚方くずは教会,みどり野保育園　園長中田一夫,翠ヶ丘教会,友愛幼児園,洛陽教会,

その他寄附金(団体)：NAの会,笑顔つながろう会,かるちゃんぷるクラブ（同志社中学校内）,京都老人福祉協会　稲荷の家ほっこり,新婦人の会,新婦人の会コスモス班②,住みよい向島をつくる会,世光保育園,空の鳥会,二ノ丸民生児童委員協議会②,二ノ丸学区社会福祉協議会,Pink cherubic,ペンギンの会,民商ニュータウン支部,よろず屋中村静ゑ

(2,089,230円 137口)

2018年3月17日現在敬称略

尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

### ★編集後記★

▼みなさまからのご意見ご感想お待ちしています（さ）

▼今号は、「地域」にとけこむ取組みを紹介させてもらった▽入居開始から四十年が経過した向島ニュータウン▽人口減少・少子高齢化が進む中、「多文化・多世代共生のまち」を目指している▽ここでいう「多文化」とは、国際的な文化だけではない▽障がい者など、様々な方々の多様な生活文化のこと指す▽多様性を認め合えるまちを目指している▽人が人として大切にされ、そのまきが、▽私たちの働きかけ一助となるようにと今後も積極的な取組みを続けていきたい（ひ）